

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472900246		
法人名	医療法人 豊和会		
事業所名	グループホーム 第2やまもも		
所在地	三重県志摩市阿児町鶴方2555-9		
自己評価作成日	平成21年 6月 15日 (月)	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472900246&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 7 月 14 日 (火)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

病院併設のため、必要な時は迅速に主治医の受診が可能で、また医師も24時間常駐しており安心である。希望者はリハビリテーションも受けられる事が出来る。
職員はより良いチームワークと笑顔を心がけ、利用者様とともに過ごす時間を大切に、利用者様にとって幸せで自分らしい暮らしを送って頂けるようなサービスの提供を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者・家族が安心の出来る医療法人のグループホームである。介護職員のさわやかな笑顔は利用者の落ち着いた生活につながる。利用者のペースを保ち、介護をさせて頂いている気持ちで利用者により添われている。言葉かけも個々に合わせ、時には方言も飛び出す、ユーモアのある事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所のよく見える所に理念を掲げ、常時意識して業務にあたるよう努めている。	「ゆったり楽しく、一緒に豊かに私らしく暮らす家を目指します」を理念として職員も共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会や地域のいきいきサロンなどはすっかり顔なじみになり、街で出会うとお互い声を掛け合ういい関係が出来ている。	散歩を兼ねての学童の見守り、道掃除、老人会のカラオケなど、地域行事には利用者と一緒に参加し、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括ケア会議に参加し、認知症介護の従事者としての意見を伝えるなど地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価への取り組みの報告や改善のための意見を伺うのはもちろん、地域の情報収集を行うなど、会議はサービス向上のための貴重な場となっている。	運営推進会議は2か月に一回開催し、参加者の貴重な意見や情報をもとに話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必ず運営推進会議には市役所と地域包括支援センターより1名ずつ参加いただき、色々情報を頂いたり意見を頂いたりしている。	運営推進会議には市担当者及び地域包括センターの参加があり、いろいろな情報を交換でき、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入口の施錠の方法を、かぎ穴にキーを差し入れて解除する方法から暗証番号方式に変えてみた。施錠している事に変わりはないのだが、利用者様の目の前でキーを開け閉めする行為をなくすことで、少しでも精神的に閉じ込められているというストレスを減らせたのではないかと考えている。	全ての職員が身体拘束は禁止であることを理解し、支援(ケア)に取り組んでいる。玄関や階段からの出入口も施錠されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	志摩市主催の高齢者虐待防止に関する研修に参加し全職員に周知するとともに、意識して防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度に関する講習に参加し、皆で情報を共有するようにしている。また、パンフレットなどを見やすい所に置き、家族にも利用しやすいようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談員により十分な説明を行い、同意を得たうえで契約頂いている。また、常時見学も可能で、利用にあたっての疑問や不安を解消して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を施設のわかりやすい所に置き、ご家族や利用者様の意見を伺うようにしている。また、面会の折には職員から積極的に声を掛け、ご家族が話しやすい雰囲気作りを心掛けている。	なんでも言ってもらえるように、ご意見箱を設置している。また、家族が面会時、意見・要望を気軽に話せるように、職員からも話したり、良い場面を作られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期の会議の場で意見を出してもらったり、管理者は日頃から職員の提案に耳を傾け、気軽に意見を出せるような職場作りを心がけている。	職員はミーティングの場で管理者に意見や提案など話す機会があり、出された意見は、話し合い、反映につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回人事考課を実施、個々の努力を給与や人事に反映するとともに、社会情勢を意識した給与水準となるよう昇給も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回以上の研修受講を義務付け、各自自主的に取り組んでいる。研修情報の提供や受講費の補助も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会及び、市内の介護サービス事業者連絡協議会に所属しており、相互交流、連携に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時の面接シートで、ご本人やご家族の現在に至る経緯をゆっくり時間をかけて聞き取り、要望等を職員全員が共有することで、より良いサービスの提供に役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの相談員がご自宅を訪問し、困っている事、要望等をゆっくり聞く時間を持っている。また、その情報をホームに持ち帰り、職員全員が周知するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経験豊かな相談員が初期対応し、法人内の他施設のサービスも考慮した上で、ご本人に最適のサービスを提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に働く、一緒に笑い合う、一緒に歌うなど、共に同じ事をして楽しむ時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族のつながりの架け橋となるよう、日頃から(面会時やお便り等で…)利用者様の様子を積極的に伝えるようにし、より良い関係を保つことに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブなどでなじみの場所へ出掛けたり、お墓参りの支援などしている。また、新しいなじみの関係を作るため、地域の集まりにも定期的に参加している。	これまで培ってきた本人にとっての大切な人や地域との関係が継続するよう、利用者の行動等から察し、ドライブ・墓参りなどの支援に努めている。地域の集まりにも参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係について職員全員がしっかり把握し、一人ひとりが居心地のいい場所になるよう配慮している。また職員が間に入り会話を促したり、衝突を回避したりして、楽しい時間を過ごせるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方に手紙を出したり、お見舞いや面会に伺い、退所された方も残った方もさみしい思いが癒せるような支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きな事、嫌いな事、喜ばれること等個々のお好みを職員が共有し、ご本人にとって幸せな毎日を送って頂けるよう心掛けている。	これまでの生活歴を把握し、日々の行動や表情から、利用者の思いを汲み取り、その人らしい暮らしを続けられるよう支援されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面接で、過去の生活歴について聞き取る時間をゆっくり取り、収集した情報を職員が共有し、日頃の話やサービス提供に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムの把握に努め、一律のスケジュールを押し付けないよう気を付けている。また、毎日のバイタルをチェックし、健康管理に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回ケアプランの見直しを行っているが、ご本人の状態に合わせ、必要な時に柔軟に対応している。	3ヶ月に一回見直しを行い、利用者・家族・職員等で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護計画に、食事・排泄・投薬・日々の様子などを記入し、職員全員で情報を共有できるようにしている。出勤時には必ず目を通すよう義務付けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じ、併設の病院を利用したり、リハビリテーションを取り入れるなど、なるべく現状を維持できるようなサービスの提供に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通じ、ボランティアの方や、地域の様々の集まりの方がホームを訪れて下さり、利用者様の楽しみが増えたように思う。この関係を維持していきたいと思っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院で定期的に健康診断を実施し健康管理に努めている。また、ご家族やご本人の希望する病院の受診や往診の手配も支援している。	ほとんどの利用者が併設の病院で受診されている。これまでの一人ひとりの受診状況を把握し、利用者によっては、希望するかかりつけ医の受診・通院の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を取っている看護師により定期的な巡回があり、入居者様や介護職員の相談に応じてもらっている。また、巡回以外でも気軽に連絡が取れる体制であり、適切な受診や看護が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームの相談員が日頃から医療関係者との連携に努めており、入退院時も手続き等スピーディーな対応が出来る体制である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時の契約で、重度化した場合の指針について話し合い、同意を得るようにしている。	重度化・終末期について、指針もつくられており、入居時に利用者・家族と納得のいく説明、話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署での救命講習を義務付けていて、施設で講習の手配を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等で対応を身に着けると共に、運営推進会議を通じて地域の方へも、災害時の協力を呼びかけている。	年2回消防署の協力を得て、避難訓練・防災訓練は実施されている。当施設は地域の避難場所になっている。	いつ、どの時間帯に起きるかわからない災害において、夜間を想定した実践的な避難訓練が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉使い、声掛けで尊厳を損ねることのないよう取り組んでいる。また、排泄や入浴の介助時には、特にプライバシーに配慮するよう努めている。	利用者一人ひとりに合った声掛けやトイレ誘導で廻りに気付かれる事もなく、そっと耳元で話されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に何事もまず声を掛け、利用者様の答えを待って次に進むよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課を押し付けるのではなく、一人ひとりがどう過ごしたいのか常に考え、拒否されることは無理強いないようようにしている。笑顔がたくさん見られるような日課になるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回美容師の訪問があり好みに応じてヘアカットしたり、職員がマニキュアやメイクのお手伝いをするなどしておしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃は準備や後片付けを職員と利用者様が一緒に行い食事を楽しんでいる。時には外食に出掛けたりしている。	調理は困難でも下ごしらえや後片付けなど利用者の個々の力を活かしながら、職員と一緒に手早くされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた量や食事内容にしており、盛り付け等も個々の嗜好に合わせて配慮している。水分は常にお茶が飲める状態になっている。個々の食餌記録も残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせ、出来る方は声掛けを、出来ない方は職員が介助して口腔ケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自立を損ねないようにさり気ない声掛けや誘導を心掛けている。	排泄パターンを把握され、時間を見計らって声掛けや誘導する等、出来る限り自立に向けて支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給すること、食事に乳製品や海藻・きのこ類など食物繊維を多く取り入れたメニューを心掛け、便秘を予防している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日風呂の準備をしているので、原則1日おきだが、入りたい日に入れるようになっている。また、ゆず湯やサクラ湯など季節を感じて頂けるような演出もしている。	原則1日おきではあるが、入浴は毎日可能であり、本人の意向により、入りたい日に支援され、時にはゆず湯・さくら湯と入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりがゆったりくつろげるスペースを確保し、また夜間よく眠れるよう、日中の過ごし方を工夫するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の説明書をファイルし、一人ひとりの服薬内容を常に確認し、その都度手渡すようにしている。投薬時には、介護記録を医師に提出し状態変化等に合わせ薬を出して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前の職歴や生活歴を生かし、食事の支度や片付けなどホーム内の仕事を手伝って頂いている。同一法人内の施設でのイベントに積極的に参加し、楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時季はドライブやお花見など、外出する機会を多くもつようにしている。買い物好きな方とは、バーゲンに出掛けたりしている。	食材の買い物など週2回広告(チラシ)を見て食べたい物など利用者と話し合い買物に行かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方はお預かりしているが、自分で管理している方もある。買い物を楽しんだ後は、レジで支払いができる方は見守る程度にし自分でして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	耳の遠い方が多いので、ご本人に代わって電話でのやり取りを支援している。手紙も年賀状など出来る範囲で書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の移り変わりを感じて頂けるよう花を飾ったり、壁の装飾を工夫したりしている。音に敏感な方がいるので、テレビの音量にも気を付けている。	玄関ロビーは広く開放されており、居間兼食堂には季節の花が生けられ、採光もよく、居間ではソファで利用者がゆったりと雑談されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂での座席や、リビングのソファの座る場所など、気の合う方同士ゆっくりして頂けるよう配慮している。席替えをする時は、必ず同意を頂いてから行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は使い慣れたものを持ってきて頂き、ご本人と相談しながら配置している。家族の写真を飾ったり、自分で作った作品を貼ったりして、居心地の良い空間となるよう心掛けている。	居室には使い慣れた家具などが持ち込まれ、利用者が居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや部屋の名札を大きくするなど“サイン”を分かりやすく工夫している。食器棚の食器の位置も安全に出したり入れたりできるよう気を付けている。		